



静岡県労働者
学習協会
〒424-0105
静岡市清水区
山切45-18 多田
TEL090-9121-0602

静岡県労働者学習協会

勤労者通信大学基礎コース学習会および理事会を開催
オンライン（ZOOM）と会場の併用（5月23日）

取り巻く情勢

（会長 原田政信）

1 コロナ禍とオリ・パラ
リンピックの是非について

感染パンデミックは波となり3回目の非常事態宣言が出されました。菅首相は「根絶のために徹底的に対応する」という答弁を繰り返すだけで無為無策となっており、PCR検査は医療崩壊を起こすから抑える（厚労省昨年5月）という姿勢にみられるように、「4波は政府が引き起こした」の声が国民の中に高まっていきます。オリンピック・パラリ

ンピックについては、国内外で「中止すべき」の声が大きくなり、世論調査でも中止すべきが過半数を大きく上回るようになりました。

2 日米首脳会談―危険な
共同声明―安保法制・9条
改憲と連動

日米首脳会談では52年ぶりの「台湾」海峡をめぐる共同対応など、中国に対抗し沖縄を含め南西諸島やフィリピンなど「第一列島線」に中距離ミサイル配置する軍事対軍事の対応を強化する方向が出されました。

3 コロナパンデ
ミックをよそに諸
悪法を火事場泥棒
的に強行

今国会において、デジタル関連法が成立しましたが、

個人情報侵害の恐れ、マイナンバーに連動させた国民監視の強化、膨大な個人情報を企業利益のために開放するなどの問題点があります。また最低投票率もない国民投票法案や医療改悪2法案（病床削減推進法案、高齢者医療2倍化法案）も衆議院で可決しました。

4 総選挙はいつになる？！
9月解散説がささやかれる
が：

4月25日の補選では、野党共闘が全勝し、政権の支持率も下落し、解散できる状況とは言えません。しかし、オリンピック開催か不開催かで状況が変わる可能性があります。

第3回理事会開催

勤労者通信大学の今年度受講者数は、5月10日現在、静岡県全体で10人です。静岡市では地域の受講者を対象に、基礎コースのスクーリングを6月から毎月開催する予定です。

昨年実施したキャラバン行動は、新型コロナの影響もあり、訪問は極力自粛し、郵便と電話で要請行動を行うことになりました。

地域の学習会では、沼津で『学習の友』学習会、静岡市社会科学学習会との共催による各種学習会、浜松で『資本論』第3部の学習会とそれが終了後、新版『資本論』学習会が予定されています。

総会は8月22日（日）午後、「あざれあ」において開催されます。記念講演として山田敬男氏（労働者教育協会会長）の講演「勤労者通信大学の基礎コースにおける未来社会論」が行われます。

勤労者通信大学「基礎理論コース」

第3章 人間の社会とその歴史

第1節 人間は社会の中で生活する
(石川哲矢)

人間は社会の中で生活しています。社会は、人間相互の社会的諸関係の総和です。物質的生活の再生産が人間生活の基本です。物質的生産とは、人間が労働によって自然に働きかけ、人間が生存するために必要な生活手段や、生産手段を生産することです。労働とは、何らかの道具や機械を使って、目的意識的に自然に働きかけ、自然を生産物に作り替える活動を意味し、人間が生存するために不可欠な基本的な活動です。しかし資本主義社会では、労働が疎外された労働になってしまっています。労働者がつくった生産物が資本家のものになってしまい、労働が強いられた苦痛をとまなう労働になっており、人間がもっている自由な意識活動が失われ、人間から人間が疎外されるという特徴をもっています。疎外された労働を克服するためには、労働のあり方を人間らしいものに変えていく努力や運動が必要です。

第2節 社会のしくみの唯物論的把握
(鳥居雄三)

社会のしくみで、重要なのは社会的存在と社会的意識です。人間の社会的存在によって人間の意識が社会的意識として規定されます。社会的存在を作り上げているものは、生産力と生産関係です。生産力は自然に働きかける力ですが、生産関係は人間の社会的な関係で、「生産手段を誰が所有しているか」という関係です。社会の仕組みを理解する重要な概念に「土台と上部構造」があります。土台は生産関係の総体で基礎の意味です。法的・政治的・教育的・宗教的・文化的など、他の社会的諸関係は、土台によって規定されています。イデオロギーは土台によって規定される観念形態のことで、宗教的・道徳的・芸術的・哲学的・法的・政治的など、体系化された社会的意識の諸形態です。階級社会では、国家が成立し「支配する権力機関」となります。生産関係が生産力の枠格となつて、矛盾・衝突するようになると、社会構成体の交替の可能性が生じ階級闘争が發展します。

第3節 人間社会の歴史的発展
(小見山正博)

原始的な共同体は、私有財産をもたない平等な社会で、労働の力は弱く、飢餓や危険と隣り合わせの生活でした。階級社会は生産力が發展し、余剰生産物がつくられるようになって成立します。奴隷制社会は、最初の階級社会であり、奴隷は人格的にも奴隷所有者の所有物でした。封建制社会は、領主は生産手段である土地を所有し、農民に耕作させ、年貢を取り立て、農民は土地に縛りつけられ、人格的にも領主に隷属していました。16世紀以降、ヨーロッパで資本主義が生まれ、資本家と労働者という新たな生産関係がつくられました。資本主義社会では、人間は人格的に自立していながらも、商品・貨幣・資本というモノに縛られています。未来の社会主義・共産主義社会では、階級が根絶され、真に自立した自由な人格として個性を發揮する段階となります。それを可能とする条件は、資本主義社会のうちにある、この可能性を現実化するのには、労働者の運動です。